

1 はじめに

作成の目的

本市は、因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏（麒麟のまち圏域）の中心市として、経済や観光、交流、防災面において、重要な役割を担っています。

その中で、鳥取駅周辺地区は、商業施設や公共施設、民藝などの歴史・文化的な資源が集積する場所であり、さらに、中心施設である鳥取駅は、交通の結節点として、住民生活を支える重要な場所となっています。

全国的に人口減少、少子高齢化が進み、本市においても様々な課題を抱える中、若者が暮らし続ける持続可能なまちづくりを進めるためには、山陰東部圏域のエントランスである鳥取駅周辺を再生し、中心市街地に賑わいを取り戻すことで、地域への誇りや愛着（シビックプライド）を醸成することが必要です。

鳥取駅周辺再生基本計画は、市民がワクワクする鳥取駅周辺に再生することで、鳥取駅を舞台にヒト・モノ・コトが集積し、交流の輪が人材を育成し続けるまちづくりの好循環を生み出すための基本的な方向性を示すものです。

本計画は鳥取駅周辺再整備のロードマップで「構想段階」にあり、今後、市民の皆様や民間事業者、関係機関など、多様な主体と連携し、本計画を実現していくための「鳥取駅周辺再生整備計画」の策定を目指してまいります。

計画の対象範囲

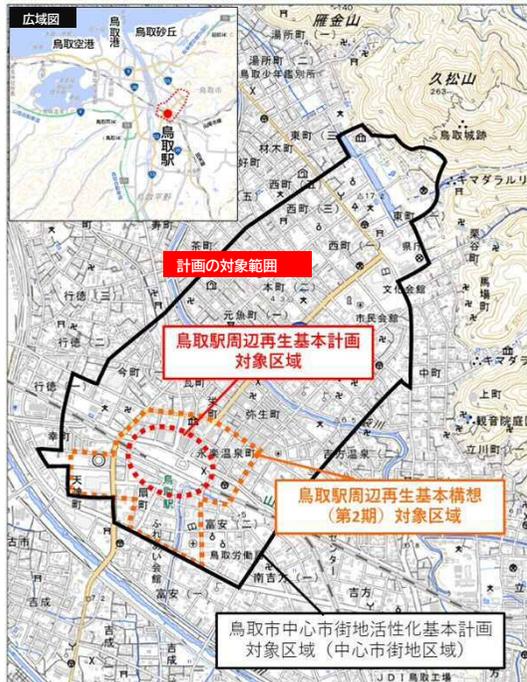


図 計画の対象範囲 出典 地理院地図ほか

2 鳥取駅周辺の現状と課題

麒麟のまち圏域・鳥取駅周辺の現状

上位・関連計画のまちづくりの方向性

■麒麟のまち圏域の課題

- 今後も人口減少、少子高齢化の進行が見込まれる中、誰もが安全で安心して快適に暮らし続けられるまちづくり
- 麒麟のまち圏域の中心市として経済・観光・交流・防災の拠点機能の対応
- 生活に必要な“移動”を守るため、地域公共交通サービスの維持や交通弱者への対応

■鳥取駅周辺の課題

- 南北方向の道路交通はアクセスできる箇所が限られていることや、バス交通が駅北側へ集中することが要因となり、渋滞が慢性的に発生し、改善が必要
- 駅周辺の道路網は災害時の機能強化の観点からも、今後、しっかりと分析・評価した上で、駅周辺道路網を適切に機能強化していくことが求められる
- 様々な世代、特に若者や子育て世代が楽しめる賑わいを創出させるための機能や若者がゆっくと過ごし、集える場としての機能が求められている
- 観光や文化等の情報提供・発信機能の充実
- 誰もが安全・安心に移動できる円滑かつ利便性の高い利用者動線の形成
- 自動運転技術の進展やMaaSの普及に対応した新モビリティの拠点の整備
- 近年、多発する災害に備え、一時避難場所や帰宅困難者の受入れ環境などの災害支援の活動拠点等としての機能の充実が必要
- 駅での賑わいが駅前商店街や中心市街地へ広く浸透していくための回遊性機能の向上や、そのための仕組み・取組が求められている
- 鳥取駅周辺都市改造事業から約半世紀が経過するなかで、時代に合った交通施設等の機能の再構築が求められている

3 鳥取駅周辺の再生に向けたビジョン

基本理念

人が集い 交流し 魅力あふれる街『鳥取OACIS』の創造

趣旨

駅周辺地区では、広域交通の起点(Origin)として魅力的(Attractive)で人々が集い、交流(Communication)が進み、また新時代に対応した各種情報(Information)がますます集積する、持続可能(Sustainable)なまちづくりを目指します。

目指す将来像

次の50年へ。未来創造ステーション

-ワクワクが止まらない、駅からはじまるミライのカタチ-

再生の基本コンセプト

麒麟のまち圏域の新たなランドマークとなる、個性豊かなまちづくりの拠点に

特に若者、子育て世代が集い、楽しみ、交流できる、カジュアルでおしゃれな空間に

居心地が良く歩きたくなる空間に(ウォーカーブル推進都市の実現)

通常時は賑わいを創出し、災害時は防災機能を発揮できる拠点に

再生の重要な視点

災害に強いまちづくりの拠点

先端技術の導入(スマートシティ)

市民や民間と共創した持続可能な体制の構築

課題解決の方向性

モーダルコネクトの強化

魅力的な賑わい創出の拠点づくり

鳥取駅周辺の回遊性・滞留性の向上

産・官・学・金の連携による事業推進

防災機能の充実

ユニバーサルデザインの対応

4 取組の方向性

<課題解決の方向性>

- モーダルコネク트의強化
- 魅力的な賑わい創出の拠点づくり
- 鳥取駅周辺の回遊性・滞留性の向上
- 産・官・学・金の連携による事業推進
- 防災機能の充実
- ユニバーサルデザインの対応

<基本方針>

基本方針	求められる役割
①集約型交通ターミナル機能の再編 <ul style="list-style-type: none"> 鉄道、バス、タクシー、自家用車、レンタカー、自転車などの多様な交通モード間をシームレスに乗り換えができる集約型交通ターミナルへ再編します。 災害、豪雪への対応や、将来的には新モビリティへの対応も可能な交通結節点を整備します。 	○交通結節機能の強化 ○乗換のシームレス化 ○公共交通の利用促進 ○災害時の防災力強化 ○豪雪時のターミナル機能の維持 ○周辺道路ネットワークの円滑化
②まちなかへ賑わいを滲み出す空間整備 <ul style="list-style-type: none"> 若者や子育て世代が、過ごしやすく、回遊しやすい人中心の滞留空間の強化に向けて、賑わい広場や歩行者デッキなどの空間を整備します。 子供からお年寄りまで、市民が安心して回遊できる歩行者ネットワークを確保します。 地域の活動拠点や多様な人々の交流機会を創出する場として、商店街などのまちなかとの連携に配慮した空間を整備します。 	○回遊、滞留機能の強化 ○若者や子育て世代の憩いの空間 ○多様な人々の交流機会創出 ○市街地との賑わい連携 ○祭りやイベント等の地域の活動拠点
③市民が集いたくなる利便施設・公共公益施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> JRやバス利用者などの公共交通利用者が快適に過ごせる待合環境の利便性向上や市民が日常的に駅に集うライフスタイルの創出を目指し、文化施設などの公共公益施設の整備を検討します。 	○文化機能の充実 ○コンベンション機能の確保 ○まちづくり等の活動の場 ○教育や人材育成などの創造の場 ○地域発の新たなビジネスの創造の場 ○情報発信の充実 ○観光振興の支援 ○福祉機能の確保
④民間の誘導・整備による多機能な複合施設の整備 <ul style="list-style-type: none"> 既存施設や商店街などとの連携にも配慮しつつ、魅力ある商業機能、宿泊や住居機能、業務やイノベーション機能を備えた民間施設整備の誘導など、複合施設の整備を図ります。 民間投資を誘導するためには、民間の有するノウハウや資金力を最大限に活かしたPPPなどの整備手法の活用を検討します。 	○商業（収益）機能の確保 ○来街意欲の喚起や来街促進 ○宿泊や住居機能による拠点性強化 ○集客性の向上 ○まちなかへの経済波及、循環 ○駐車場等の収益機能の確保

▼鳥取駅周辺再整備のイメージパース

（イメージパースは目指す姿が実現した一例であり、取組の方向性を示すものです。今後、関係者間で協議・調整の上、実現に向けて進めていきます。）

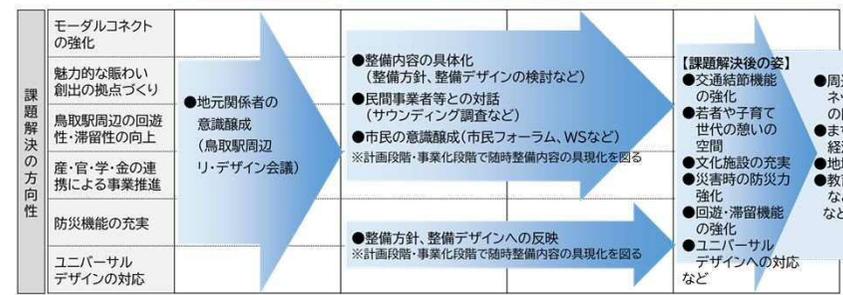
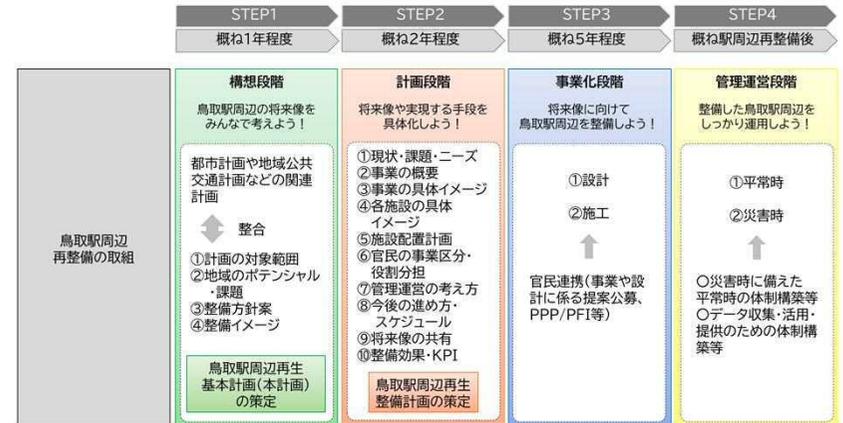


<具体的な施策のイメージ(抜粋)>



5 今後のスケジュール

本計画は鳥取駅周辺の再生に向けて、再整備の方向性や目指す将来像を示しているものです。今後、本計画の実現のために、実態調査の実施や詳細イメージ・整備手法の検討などを行い、鳥取駅周辺再生整備計画をとりまとめていくとします。



○市民との対話 ○官民での対話
○社会情勢の変化への対応 ○新技術の導入

※今後策定する整備計画や整備手法に応じて、整備の内容・時期、それに伴う事業効果の発現時期などが変わってきます。引き続き、社会情勢等にも留意しながら、市民、事業関係者の意見を踏まえ、再整備を進めていきます。